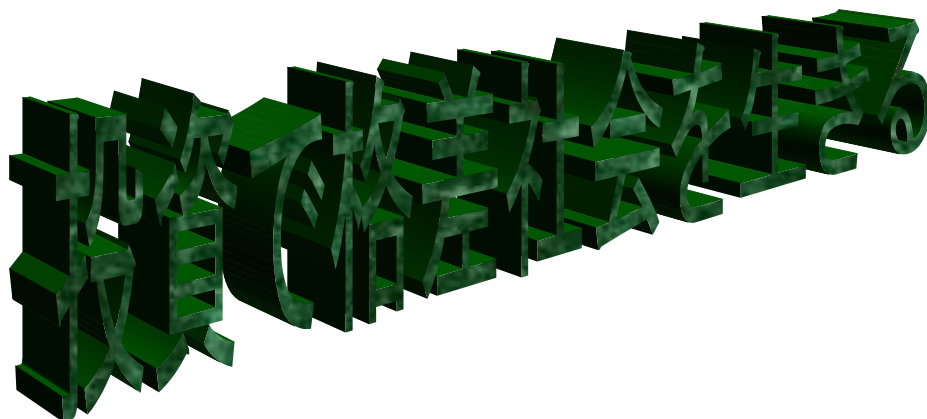


<第七回 日経・STOCKリーグ>



～格差社会に着目した株式投資～

ID SL701163

開成高等学校 1年

チームリーダー 村越 敦

メンバー 永石 真之

越智 秀明

永田 翼

安野 貴博

指導教諭 石井 淳先生

(社会科 政治経済担当)

1、はじめに

最近、東京では、銀座や丸の内に、海外の有名ブランドのショップが数多く開店したり、六本木ヒルズに代表される、高賃金である外資系企業の集まるオフィスビルや高級マンションが建ちならんだりする一方で、給食費を払えない家庭やいくら働いても貧しい生活から抜け出せないワーキングプアが問題となっています。

そこで今回、僕たちは「格差社会」に着目してみました。そして、「格差社会」をテーマにするにあたり、注目したのが「富裕層」の存在です。日本は先進国の中で一番、格差が少ない国とされてきて、今まで、商品・サービスのほとんどが中産階級を対象として製造・販売されてきました。しかし、これからの「格差社会」のなかで、商品・サービスは低価格な物と高級な物に大きく分かれていくでしょう。その中で、期待できると感じたのが、高級な商品・サービスです。2007年以降の、団塊の世代の引退などで「富裕層」の増加が予想され、また「大量生産・消費」の時代からの変化で「高くても良い物」の需要が伸びると思ったからです。そこで、「富裕層」向けのビジネスを行なっている企業でポートフォリオを構成することにしました。

(ちなみに、富裕層とは具体的にはどれくらい資産を持つ人々なのでしょう。今回、ポートフォリオの構成にあたって、参考にした野村総合研究所では、「生活者1万人アンケート調査」を基に、世帯年収2000万円以上または金融資産1億円以上を富裕層と定義しています。したがって我々もこの定義に従うことにしました。)

2、購入した株

コード	銘柄	市場	購入額
2764	ひらまつ	東証 2 部	315,000
2779	三越	東証 1 部	346,122
4681	リゾートトラスト	東証 1 部	295,320
7203	トヨタ自動車	東証 1 部	393,120
8001	伊藤忠商事	東証 1 部	345,950
8011	三陽商会	東証 1 部	345,668
8234	大丸	東証 1 部	344,916
8411	みずほフィナンシャルグループ	東証 1 部	340,800
8601	大和証券グループ本社	東証 1 部	395,446
8606	新光証券	東証 1 部	395,604
8815	東急不動産	東証 1 部	296,800
8913	ゼクス	東証 1 部	284,200
9701	東京會館	東証 2 部	346,290
9708	帝国ホテル	東証 2 部	344,250
合計購入金額			4,789,486

3、ポートフォリオの構成業種

(1) 金融機関は富裕層のコンビニになる！

今回のポートフォリオを構成するにあたって、注目したのが金融機関です。今、社会全体が、一ヶ所で様々なサービスが受けられるように変化しています。例えば、コンビニでは、ATM やチケットの販売端末機の他に、宅配便の取次ぎなど様々なサービスを取り扱っています。このように、サービスを一ヶ所で受けられることによって、コンビニには手数料がもらえることや来店客が増加するというメリットがあり、サービスの提供元はコストを余りかけずに販売場所を大幅に増やすことができます。これと同じことが、金融機関にも言えると思います。金融機関は他の業種より、富裕層との接点が多く、特に、大手銀行は数多くの合併を経て、日本全国に店舗網を持っています。この店舗網を活かして他企業のサービスを取り次げば、銀行にとっても手数料が稼げます。これからは、金融機関が富裕層ビジネスの世界の中心となると思います。

(2) ブランドはかなりの優位性を持つ！

富裕層にとっては、高くても高品質な物を買うということが、もっともスタンダードな考え方だと思います。その代表例がブランドです。ブランドは、短時間で作られるものではなく、長年の成果によるものです。この点で、いまあるブランドは先行しており、この優位性は絶対的なものです。よって、ポートフォリオには、有名なブランドを保有する企業や、それを扱い、自身も高いブランドを持つ、百貨店を入れました。

(3) レジャーは成長産業！

2007 年から、団塊の世代の斉退職が始まります。野村証券の推計によると、2007 年からの 3 年間に支払われる退職金の合計はなんと 81 兆円に達すると考えられています。81 兆円といえば韓国の年間の GDP に匹敵する桁外れの金額であり、また日本の個人金融資産の合計である 1500 兆円の 5.4%を占める規模の金額です。したがって、団塊の世代は、旅行やスポーツなどのレジャーにこの退職金をつぎ込むのではないかと考えました。また、既存の富裕層も一般の層よりも、レジャーにつぎ込めるお金は多いと考えました。そこで、リゾートやゴルフなどのレジャー施設、また、シニアハウスを運営する企業を選びました。

4、選択企業について

(1) ひらまつ(東証2部、2764)

ひらまつは富裕層向けの高級レストラン経営を中心に発展している企業ですが、このひらまつにとって、2007年は大きな節目の年となると思います。1月には国立新美術館に4店舗開店、2月には広尾の2店舗を改装、3月には名古屋・六本木、4月・9月には銀座、さらに6月には代官山に開店。年商100億円規模へのステップとなります。さらに、ひらまつは、規模だけでなく質も追求します。2001年10月、パリ・サンルイにオープンした「レストランひらまつ」パリ店は、日本人オーナーシェフが経営するレストランとして初めてミシュランの1つ星を獲得しました。2005年には、現代フランス料理界の巨匠であるポール・ボキューズ氏と提携、これからも同社の展開は期待されます。

(2) 三越(東証1部、2779)

日本を代表する百貨店である三越は1999年に「お帳場客」と呼ばれる優良顧客を専門に担当する「お得意様営業部」を新設しました。その結果「お帳場」ご招待会の本店での来場者は2006年9月期で、前年同期比3.9%増、三越発行のカードを保有している人のうち、年間50万円以上購入する人の数が1.2%増となりました。また、高齢化が進む「お帳場客」から、若い世代も困り組むために、2004年には日本橋本店新館の改装を実施し、その一方で、不採算店舗の横浜店や大阪店を閉鎖しました。今後も、三越の高いブランド価値を生かした様々な取り組みが、期待できます。

(3) リゾートトラスト(東証1部、4681)

リゾートホテル「エクシブ」、検診医療「ハイメディック」等の会員制施設の運営、会員権の販売を軸に経営を拡大しているリゾートトラストの会社案内のご挨拶のところにはこう書いてあります。

『社会基盤も、これまでの年功序列から能力主義に変化していく傾向が見られます。こうした環境の中では、通常はハードに仕事をし、休むときは思いっきり遊ぶという合理的な考えをする、若い新富裕層と位置づけられる人達が台頭してくるのは必至と思われます。また確たるライフスタイルを持ち、趣味やリゾートライフを充実させることを生きがいとする、アクティブ・シニアも益々増加していくでしょう。』この考えは今回の富裕層ビジネスへの投資というテーマにぴったりです。リゾート

分野では 2006 年には京都に主力の「エクシブ」を、2008 年には東京のお台場に日本初の都市型リゾートホテルを開業させます。リゾート以外の分野には、メディカル事業があり、がん検診を行なっています。山中湖や大阪、東大病院に拠点を置き、さらに 2007 年春には六本木の東京ミッドタウンにアメリカ最高レベルの病院との業務提携による新しい拠点を開設します。今後も団塊の世代の退職によってリゾートの需要は増加すると考えました。

(4) トヨタ自動車 (東証 1 部、7203)

トヨタ自動車は、1989 年に北米で誕生した高級車ブランド「レクサス」を 2005 年 8 月に、日本へ導入しました。当初は輸入高級車のまえに苦戦しましたが、2006 年 9 月に、フラッグシップモデルの「LS」を導入と同時に、販売が急増しました。「レクサス」には、トヨタ自動車の十八番であるハイブリッドモデルもあり、「LS」では、歩行者検知システムや世界初の 8 速 AT も投入され、輸入高級車にはない、先進技術が売り物となっています。

(5) 伊藤忠商事 (東証 1 部、8001)

伊藤忠商事の繊維カンパニーは、原料から最終製品まで扱い、圧倒的な強みを持つブランドビジネスでは、海外優良ブランドの買収による日本市場への導入とともに、育成も行なっています。「ランバン」「ポールスミス」「ミラーション」など高級ブランドから、「コンバース」などスポーツ分野、「バリー」「クロムハーツ」「スカヴィア」「リチャード・ジノカ」など、靴・鞆、宝飾品、テーブルウエアを展開しています。2006 年 2 月には米国服飾雑貨メーカーのブランドサイエンス社と共同でレスポートサック社を買収し、アジア・オセアニアでの展開を強化していきます。また、2006 年 3 月には、フィラ・ルクセンブルグ社と、日本での「フィラ」ブランドのマスターライセンス契約を結びました。これからも、商社の情報網を生かした、大型ブランドの買収が期待されます。

(6) 三陽商会 (東証 1 部、8011)

「E V E X」などの主力ブランドを抱える三陽商会は、1965 年にイギリスのバーバリー社とのライセンス契約によるコートを生産販売して以来、各国の有名ブランドと契約し、日本に様々なブランドを導入してきました。最近では、物の価値を見極められる本物志向の人たちを対象にした、日本の伝統職人の技による男性向けブランド「三陽山長」を展開するなど、男性を対象としたブランドを重視していま

す。これからの、富裕層の男性はファッションにも気を使うと予想します。今までの、婦人向けブランド中心からの転換による売り上げ基盤の拡大が期待されます。

(7) 大丸(東証1部、8234)

大丸は、関東地方では大丸本体よりも、子会社でスーパーを運営する大丸ピーコックのほうが身近であるかもしれませんが、関西では、心斎橋店、梅田店、京都店など繁華街に店舗を展開し、三越と並ぶ高級百貨店と認識されています。2006年1月に、顧客基盤の拡大を目指し、新しいクレジットカード「DAIMARU CARD」を発行し、他にも心斎橋店・神戸店での「サロン・ド・グー ブランシェ」などの高額商品の売り上げが好調でした。今後も、東京店の移転増床、ららぽーと横浜・浦和パルコでの新規出店など、関東地区での売り上げ増が期待されます。

(8) みずほフィナンシャルグループ(東証1部、8411)

みずほフィナンシャルグループでは、傘下に、みずほ銀行・みずほコーポレート銀行・みずほ信託銀行・みずほ証券・みずほインベスターズ証券などを抱え、様々な金融サービスを提供しています。そのなかで、みずほプライベートウェルスマネジメントは、富裕層を対象にプライベートバンク業務を提供しています。プライベートバンク業務は、今まで海外金融機関の草刈場となっていました。最近、メガバンク・信託銀行系を中心に日本企業も参入しています。みずほプライベートウェルスマネジメントでは、金融サービスのほかにも、アートや自動車について、業界の一流企業と提携して顧客のニーズにあったサービスの提供を行なっています。みずほ銀行本体では、六本木ヒルズに個室で資産運用や住宅ローン等の相談ができる拠点を開設しました。これからも、プライベートバンク業務は富裕層の増加に合わせて、需要が増加することが期待されます。

(9) 大和証券グループ本社(東証1部、8601)

2004年に、ラップ口座が解禁されました。ラップ口座とは、証券会社が顧客の大まかな指示に基づいて資産を運用・管理する富裕層向けの口座のことです。2006年6月末の契約資産残高は3840億円で、そのうち大和証券の「ダイワSMA」は1787.6億円と半分近くを占めて、首位となっています。大和証券では最低契約金額を10億円と5000万円の二つに絞って、他の証券会社が1000万円や2000万円と設定している中、あくまで富裕層に限っています。2006年8月にはシンガポールに拠点を開設して、アジアの富裕層を対象に活動しています。今後も、ラップ口座で

首位を保ち続けていくことが期待されます。

(1 0) 新光証券 (東証 1 部、 8606)

新光証券のラップ口座「新光 Long・AP」は、大手銀行・地方銀行の窓口での取り扱い強化をしています。2006年11月には、第一生命保険と提携して、第一生命の顧客で株式売買やラップ口座の開設を希望する投資家を新光証券に紹介します。生命保険会社と証券会社の、顧客を紹介する提携は初めてであり、これからもこのような提携が広がるのが期待されます。

(1 1) 東急不動産 (東証 1 部、 8815)

東急不動産のリゾート事業は、機能性以外に、地球環境を重視して「自然と人間の共存と調和」を基本理念としています。複合リゾート施設の「東急リゾートタウン」の他、会員制ホテル、ゴルフコースやスキー場、別荘、さらに、リゾート運営ノウハウを活かしたコンサルティングを展開しています。その他にも、東急グループで分譲し、約半数の世帯が60歳代以上となっている東急田園都市線沿線を中心に高級老人ホーム、シニア向け住宅を運営しています。

また平成18年度中間報告書によると、現在、東急不動産のリゾート事業部門は総売り上げの1割ほどを占めているのに過ぎませんが、対前中間期比+13.5%とこれから発展する兆しを見せ始めています。これからも、団塊世代の退職によってシニア向けの住宅の需要が増加することが期待されています。

(1 2) ゼクス (東証 1 部、 8913)

ゼクスでは、シニア向け住宅優待申込権付ゴルフ&リゾート会員権「C-stage membership」の販売を行なっています。この会員権の特徴はゼクスの運営するシニア向け住宅への、入居の際に、一時金の90%が割り引かれる他に終身利用権ながら、二親等内での譲渡が可能となっています。これからの高齢社会の中、このような会員権は資産としても魅力的であると思います。

(1 3) 東京會館 (東証 2 部、 9701)

丸の内の東京會館は、格調高い宴会場と本格的なフランス料理を提供し、数々の公賓・国賓を迎え日本を代表する国際的な社交場として知られますが、

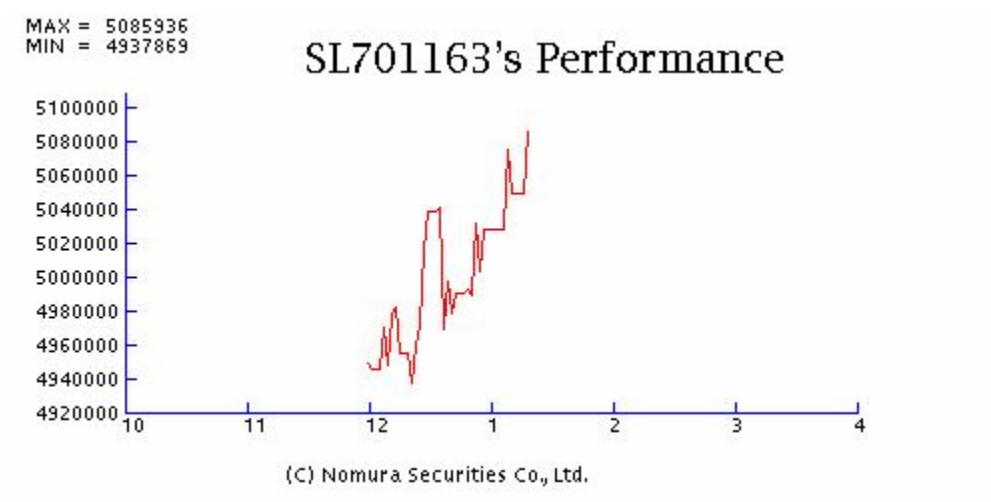
壮年男性ばかりだった婚礼担当者を全員二十代女性に変更し、列席者の席順や式次第といった「親目線」のアドバイスにとどまらず、料理や装飾など花嫁と同じ目線で自由な婚礼プランの提案を始めました。伝統や格式などにこだわらず、今後も身近な取り組みが期待されます。

(1 4) 帝国ホテル (東証 2 部、9708)

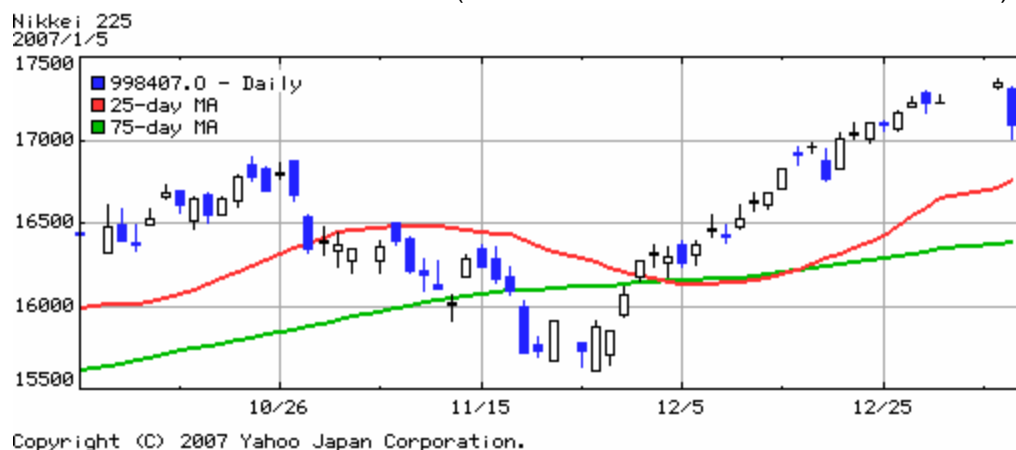
帝国ホテルは、日本を代表する高級ホテルで、ホテルニューオータニ、ホテルオークラと共に「御三家」と呼ばれ、その中でも別格の存在です。近年、東京で外資系のホテルが林立する中でも、そのブランド力は際立っています。景気回復が進む中、帝国ホテル東京で売り上げの3割を占める宴会部門の回復が進むと予想されます。2005年11月の黒田慶樹さんと紀宮清子内親王さまの結婚式の影響で結婚式の増加も期待されます。

6、ポートフォリオ運用結果

今日(1月10日現在)までの運用結果を示しておきます。



(野村のバーチャル株式投資倶楽部より引用)



(yahoo ファイナンスより引用)

上図は我々の運用の経過、そして下図は日経平均の3ヶ月間の推移を表しています。下図を見ると我々が運用を始めた11月末にちょうど日経平均もとりあえず底を打ち、その後は日経平均も回復、それに付随するように我々の評価額も上がっていることがわかります。

次に各々の評価額について見てみましょう。

購入日	銘柄名	取得単価	取得株数	取得金額	終値	現在の株数	評価額(円)
06/11/30	2764 ひらまつ (東証2部)	63,000	5	315,000	67,300	5	336,500

06/11/30	2779 三越（東証1部）	574	603	346,122	570	603	343,710
06/11/30	4681 リゾートトラスト（東証1部）	3,210	92	295,320	3,160	92	290,720
06/11/30	7203 トヨタ自動車（東証1部）	7,020	56	393,120	7,870	56	440,720
06/11/30	8001 伊藤忠商事（東証1部）	935	370	345,950	960	370	355,200
06/11/30	8011 三陽商会（東証1部）	839	412	345,668	858	412	353,496
06/11/30	8234 大丸（東証1部）	1,474	234	344,916	1,622	234	379,548
06/11/30	8411 みずほフィナンシャルグループ（東証1部）	852,000	0.4	340,800	880,000	0.4	352,000
06/11/30	8601 大和証券グループ本社（東証1部）	1,327	298	395,446	1,340	298	399,320
06/11/30	8606 新光証券（東証1部）	444	891	395,604	466	891	415,206
06/11/30	8815 東急不動産（東証1部）	1,120	265	296,800	1,143	265	302,895
06/11/30	8913 ゼクス（東証1部）	203,000	1.4	284,200	206,000	1.4	288,400
06/11/30	9701 東京會館（東証2部）	595	582	346,290	598	582	348,036
06/11/30	9708 帝国ホテル（東証2部）	4,250	81	344,250	3,950	81	319,950
	金額合計			4,789,486			5,085,936

（野村のバーチャル株式投資倶楽部から引用）

この表によると、購入した14銘柄のうち、値が下がったのは三越、リゾートトラスト、帝国ホテルの3社だけであることがわかります。

それぞれ値下がりした理由を考えると、

三越...平成19年2月期第3四半期の売上高が前年比4.9%になったことが2006年12月26日に発表され、売りが多くなったから

そして残りの2社は特に理由は見つかりませんでした。いずれにしてもこの3社の値下がり方はそれほどでもないことがわかります。また、全体としてもと5,085,936(1月9日現在の評価額)-4,789,486(はじめに株式を購入した金額)=296,450円と利益を出しているのです。概してうまく運用することができたと言えるでしょう。

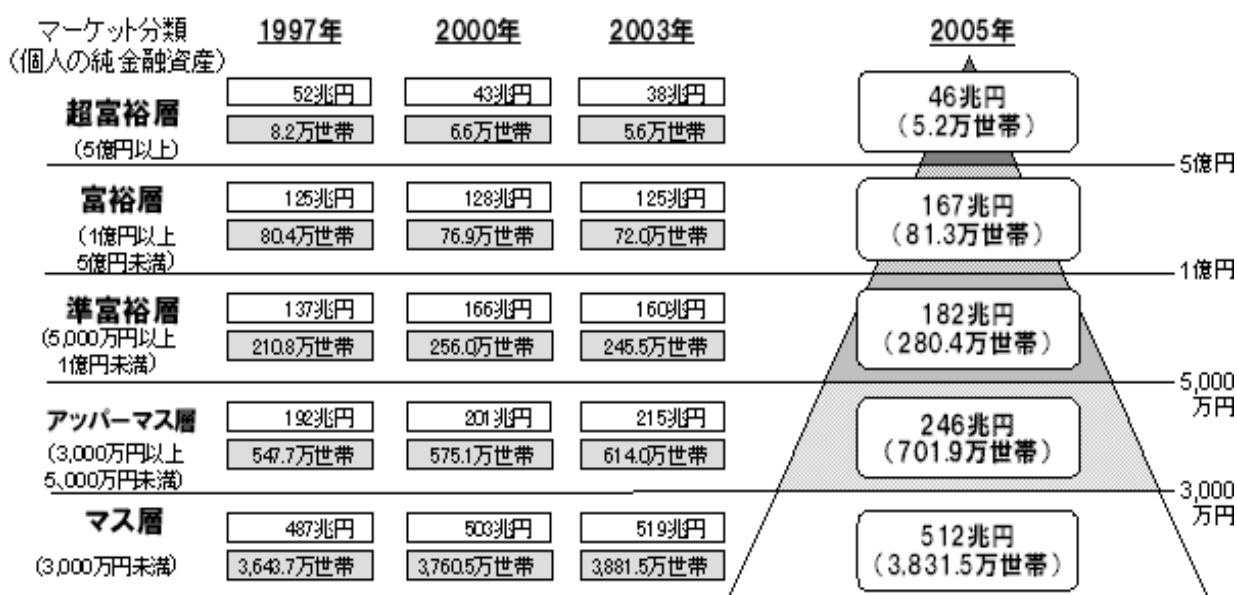
(参考資料 三越のチャート)



(yahoo ファイナンスより引用)

7、 投資で格差社会を生きる～ストックリーグで学んだこと～

次の図は、資産額別に世帯を分け、その世帯数と保有する資産の総計を推計した図です。この図をみると、超富裕層は一世帯あたりで約 8.8 億円の資産を保有していますが、マス層となると、約 1300 万円と 67 倍もの差が開いています。単純に見ても格差がはっきりしています。しかし、公的年金に対する不安など、ある程度の金融資産を持っていなければ、老後も安心して暮らしてはいけない状況です。



(野村総合研究所ホームページより引用)

また、富裕層の資産構成は 4 割近くが投信・株式で占めている一方で、全国の家
庭の平均は 13.8%となっており、株価の回復によって、富裕層の資産は増加し、
格差がますます開いていっています。この格差を少しでも埋めるには、投資は富裕
層のものだけではなく、普通家庭(特に準富裕層)でもより積極的に行なっていく
必要があると感じます。そのためには次の二つの点が必要だと考えました。

<1> 子供の時から、投資についての正しい知識を身につけさせる

今回のストックリーグのような企画は、この点で、非常に評価できるものだ
と思います。日本では、投資に対する印象がよくない面もありますが、投資
は社会全体のためにも必要なことであると教えていくことが大切です。

<2> 少額から投資できるような商品を普及させる

株式累積投資や純金の積立は、個人投資家にとって最適な商品だと思います。
しかし、株式累積投資にはデメリットもあり、いいことだらけというわけに
はいきません。

格差は、何もしなかったら、ますます開いていってしまいます。社会保障もあて
にできない現状では、自分から動いていかななくてはなりません。個人による投資は

日本を活性化するために必要であり、もっと広く普及させなくてはいけないと思いました。また、我々も正しい投資の知識を身に着け、短期・長期間問わず上手に株式を運用し、この厳しい格差社会を生き残っていきたい、と強く実感しました。そういう意味でも、このストックリーグのような試みにどんどん参加していきたいと思っています。

8、参考資料

- ◆ 日本経済新聞
- ◆ 日経流通新聞MJ
- ◆ 各企業発行の印刷物
- ◆ 各企業のホームページ
- ◆ 日本経済新聞ホームページ「NIKKEI NET」 <http://www.nikkei.co.jp/>
- ◆ 野村総合研究所ホームページ <http://www.nri.co.jp>
- ◆ 社団法人日本証券投資顧問業協会ホームページ
<http://jsiaa.mediagalaxy.ne.jp/index.html>
- ◆ 日本個人投資家協会ホームページ <http://www.jaii.org/>
- ◆ 日経STOCKリーグホームページ
<http://www.manabow.com/sl/index.html>